

## 【小学校第5学年の実践】

## 1 主題名

先人の努力を知り、国や郷土を愛する心【C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】

## 2 教材

農業王国・十勝の第一歩を築いた先駆者 依田 勉三(北海道版道徳教材(小学校高学年用))

## 3 主題設定の理由【指導観】

## (1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上で心のよりどころとなるなど大きな役割を果たすものである。また、郷土は、生きる上での大きな精神的な支えとなるものである。郷土での様々な体験など積極的に主体的な関わりを通して、郷土を愛する心を育むとともに、親しみをもちながら視野を広げて、国や郷土を愛する心を持ち、国や郷土をよりよくしていこうとする態度を育成することが大切である。

第5学年の指導に当たっては、郷土の伝統や文化などについて交流する機会を設定し、そのよさについて理解を深めることを通して、伝統や文化を育ててきた郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し、郷土のよさを考え、大切にし、さらに発展させようとする実践意欲や態度を育てていきたい。

## (2) 児童の実態【児童観】

郷土のよさを考え、大切にし、さらに発展させようとする実践意欲や態度を育てるために、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

## ①社会科「わたしたちの生活と食料生産」

先人の努力を知り、郷土のよさを考え、大切にし、さらに発展させようとする実践意欲や態度を育てるために、農業に関する学習において、晩成社が稲作や穀類、ビートや酪農等、農業王国・十勝の第一歩を築いたことに触れ、現在の十勝の農業等の様子と比較しながら、地域社会の変遷の様子を学習する指導を行っている。十勝の過去と現在について理解を深めるとともに、地域のよさを再認識するなど、愛着をもつ姿が見られるようになってきている。

## ②総合的な学習の時間「十勝の農業を体験しよう」

先人の努力を知り、郷土のよさを考え、大切にし、さらに発展させようとする実践意欲や態度を育てるために、地域の歴史や文化、産業に関する学習において、十勝や帯広の発展に尽くした依田勉三の様々な苦心や努力を理解できるように指導を行っている。自分たちの身近にある自然や農業の中から問いを見だし、課題解決に向けて情報を集めたり、整理・分析した上で、まとめ・表現したりする探究的な学習の過程を通じて、今まで当たり前になっていた生活の背景に、先人の思いが存在することに気付くとともに、自分たちの生活を見直す姿が見られるようになってきている。

以上のような実態から、今後は道徳科の授業において、郷土のよさを考え、大切にし、さらに発展させようとする態度について、先人がどのような思いをもって郷土を発展させようとしたのか考えを深めたり、自分との関わりで見つめさせたりする指導が必要である。

### (3) 教材について【教材観】

郷土のよさに気付くとともに、郷土を大切にし、さらに発展させようとする態度を育てるために、郷土を愛した先人の努力について、多面的・多角的に考えさせる。様々な困難に立ち向かい、十勝や帯広の開拓に人生を懸けた依田勉三の心情を想像させ、話し合ったり、自分たちにできることは何かを考えたりすることで、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

本時においては、中心的な発問とそれを効果的にするための基本発問を次のとおり設定する。

#### 1 「◎中心的な発問」の場面

→十勝の開拓に向けて歩みを進めた勉三の生涯について

- ◆意 図：十勝の開拓に向けて歩みを進めた勉三の生涯を見つめ、「あなたなら、勉三のような生き方ができますか。」と問うことにより、勉三が人生を懸けて開拓してきた偉大さや、郷土を大切にし、発展させていこうとする強い思いを想像し、価値理解・他者理解を深められるようにしたい。また、「自分にはできない」、「自分ならできる」、「できないけどしてみたい」といった考えを板書に整理することで、多様な考えに触れ、多面的・多角的に考えられるようにしたい。

勉三の思い：生活は厳しくても豊かな実りを期待し、北海道の開拓をつらぬきたいという強い思い。

#### 2 「○基本発問」の場面

→勉三が「開墾の 始めは豚と 一つ鍋」の句を詠んだ場面

- ◆意 図：勉三が、「開墾の 始めは豚と 一つ鍋」の句を詠んだときの思いを問うことにより、当時の状況の厳しさを捉えた上で、開拓に向けた勉三の思いを多面的・多角的に考え、人間理解を深めさせたい。

勉三の思い：開拓のはじめは困難な状況かも知れないが、仲間とともに開拓の歩みを進めたいという思い。

→勉三が晩年に「十勝野は…」という言葉を残した場面

- ◆意 図：勉三が晩年に残した「十勝野は…」という言葉の続きを考えることにより、勉三の郷土を大切にし、発展させていこうとする強い思いを想像し、価値理解を深められるようにしたい。

勉三の思い：開拓に懸ける不屈の精神は受け継がれ、これから十勝は発展の歩みをたどるに違いないという思い。

#### 4 ねらい

依田勉三の生き方に触れることを通して、人生を懸けて十勝の発展の礎を築いた先人の努力を知り、郷土のよさを考え、大切にし、さらに発展させようとする態度を育てる。

#### 5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● ふるさとのよさについて話し合う。 ○ あなたのふるさとのよいところはどうなところですか。 ・自然が多いこと。 ・農業が盛んなこと。 ・食べ物が美味しいこと。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして一人一人のふるさについて考え、交流する場を設ける。	<b>【工夫①】</b> ・ふるさについて一人一人が考え、ペア交流や全体交流を行うことで、本時のねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。
展 開	● 教材「農業王国・十勝の第一歩を築いた先駆者」を読み、話し合う。 ○ 「一つ鍋」の句を詠んだ勉三はどんな思いでいたのでしょうか。 ・開拓は始まったばかり。 ・困難なことに立ち向かいたい。 ・晩成社を大きくしたい。 ○ 「この十勝野は…」の後に、どのような言葉が続いたと思いますか。 ・まだ開拓は続いていくはず。 ・大きなまちに発展してほしい。 ・この先ずっと続いてほしい。 ◎ あなたなら、勉三のような生き方ができますか。その理由は何ですか。 ・できない。勉三が努力を続ける強い気持ちは、とてもまねできないと思うから。 ・できないけどしてみたい。北海道の開拓のために尽くす生き方がかっこいいと思うから。 ・挑戦してみたい。自分も、今住んでいるふるさとのために、自分の力を発揮したいから。	・勉三と同じ人生を歩めるか自分事として考え、人生を懸けて開拓する偉大さを感じさせることで、価値理解や他者理解を深めさせる。	<b>【工夫②】</b> ・年表を活用し、時系列で勉三の生涯を確認した上で、勉三の立場に共感する発問を行い、人間理解を深めさせる。  <b>【工夫③】</b> ・主人公の生き方を客観的・批判的に考える発問を行うことにより、道徳的価値を自分事として捉えられるようにするとともに、座席表を用いて、児童の考えを把握し、意図的に指名して多面的・多角的な思考を促す。
	● 自己を見つめる。 ○ ふるさとのよさを守るために、大切なことは何ですか。 ・ふるさについてもっと知る。 ・自然や街をきれいにする。 ・街のためにできることに取り組む。	・導入で話し合ったふるさとのよさについて、再度問うことにより、より自分事として考えさせる。 ■ 郷土のよさを考え、大切にし、さらに発展させようとするについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	<b>【工夫④】</b> ・児童同士で、自ノートを交換し、感想を交流することにより、互いの考えを認め合い、自己理解を促す。  <b>【工夫⑤】</b> ・教師自身が、ふるさとへの思いや、よさを守るために大切だと思うことについて説話を行う。
終 末	● 教師の説話を聞く。 ※教師自身にとっての、ふるさとへの思いについてエピソードを交えて話をする。	・我が国や郷土を尊重し、愛する態度が育まれるようにする。	

